歳旦

宗梅居

中村俊定文庫
文庫 18
450

宗梅居文庫

歳旦

夢はうつゝ世間の歳末
降るゝに明ける元日　宗梅居　逸志

福寿二梅さく福寿草　溪雨

探山のかゝる雲
冨士の雪ふる　祇蘭

中村俊定文庫
愛知県立図書館

歳旦歳暮

宗成

十橋

仙人

来徳

半秋

珉里

金翠

暁雨

冬牛

柏笥

祇彰

大海の岩に波の穴うがつ、
山とさにぬる雨空やとぜの実　機夕
手の内よ都の方のみやこ鳥、
さゝやかに松の葉の初日の花　文星
三の都庶よ静よ、かゝる鞠、
神の代の春の日の庭夫成美
りゝしに出む人樹屋の梅枝、
うこゝろ咲き祇園の門や松のさゝ　祇蘭
春雨や寝ぬ人の床傍、
みたらの月松の星や家の灯　信夕
人の袖かりよやきぬ紀貫、

れ生の四つ辻やゝ門入松　溪雨
寄せ世の種蒔よりうゝの花、
茅葺の山入神祭書夏　花徑
咲ゝ咲き春やゝ和やゝ母波鶴、
ゝ月と小鮒の美　莞爾
子曲の去雲ゝの都外、
雲の松入ゝ世代夏書門の夜　晴雨
餅搗て夏都て去やゝ客、
ゝゝゝゝ傍やゝ子牛　有鶴
夏茅や傍ゝ寸　傍ゝ内、
寒庶の要ゝ一ゝ朝の去　船歩

張よ徒の人手やうを、

○

松井氏宅にて又一つ門の春　東里

一つ〻松を明るう明し春の、

初春や人なき家に門傷む　路暁

いさゝか人手の後者の注鶏、

拘あり拾子を降りて鶏の春　文旅

京花より手紙降りうしの乳、

又ゆく末は皆さの春　大壽

疑ひて鶏の子の春の、

子等と、かゝる鶏も春　墨水

一とせの夏分歌やとしてとも、

入梅の頃生や咲しの花と、

花の風のうつゝや門傷心峨

春ひとつの春の春しの絵、

月のうゝの三移を於三の朝　桂舎

折紙数の件の指やうや、

花ゆゑ門松の枝入る線　松有

月和を鶏の部会の春の、

久鶏はゝ春を花さゝ福辭　斗宴

しゝの家の春やうや大鳴る、

いとゝ紀伊国松浦島や朝の夾　豊調
條よりの新蒲を雪かも身の雪、
大王の丈の紙さや伯耆国　千以
うゝ地ゝ所の人金ヤまの波、
芦毛の松と春雨に降る　芦貫
和しの松や心あるあき神　清、
初春や爾の名野面　琴雨
雉操や笑し鶯　岩神山後、
明六の鶴よひくゝや花の要　如髮
扶さんよ波定のふ三や茅　信、
ちらちらとちらちらとと

葦の矢よ桃咲くゝ屋の内の子　鳳臺
学乃家に書をあ者の春　春潮
百里を右ちゝ百ちゝ　、
紀伊ゝ成天津宮の弟子成の春　宣成
あゝ子の寅年乃宮　、
天地の先ゝよ人ゝ月の朝　著明
世ゝとあゝ人の命や年のく紙　、
咲ゝ乃人格者乃上の世うか　魚見
様ゝ上ゝ歌の歩を波定る　、
我門や歌を松の先ゝ赤き　祇範
ゝ月ゝ二月ゝ乃ゝ古唐　、

行く先を我和歌や人丸春　連城

秋草に濃かるべき身の関、

その時を命のえぬ世や福寿草　来之

自波や鯨よ松魚よ注繰、

うく山は世界かのべ福寿　文魚

そてしなる紅をかはや自惜、

○

立春法はよ起仏よ起　寸竜

波をうつ智はてしなぬ、

鶴の羽の一親使や鶴の声　如友

亀の甲をうつ年の功、

○

酒汲てし緑ア美よりう　社明

松井竹の鶴を心の紙の内　一瓢

○

春風を矢の調の中しろ内　半太夫

雪の方春を鶴の中しの地　半九郎

行小の春も雪しをし内　半蔵

をなをの酒関や自をを　八光

小しの口を花ををこのする業　享治

年忘酒と酒の小　惣治

春興

梅見て遊ぶ人　宗梅

被ぬ被ぬ　千局

吹こゝ風　東風

橋拍子雪解水　青瀾

歳旦　歳暮

[illegible]　輙魚

[illegible]　羅木

[illegible]　逸冨

[illegible]　逸援

[illegible]　逸花

[illegible]陽のきぬ[illegible]行[illegible]書発覆書　逸機

炭はきやの人よはみ[illegible]、

[illegible]義の[illegible]の[illegible]の風やさら　逸雨

[illegible]やまの[illegible]入[illegible]雪[illegible]き、

[illegible]ふ[illegible]旅[illegible]ね[illegible]と[illegible]川[illegible]　舞蛟

乃市[illegible]て鳥帽子[illegible]の[illegible]、

[illegible]ら[illegible]や[illegible]笛[illegible]よ[illegible]道[illegible]井の内　亀栖

西の海浮世の[illegible]乃[illegible]、

[illegible]御[illegible]冷[illegible]風の形　祇聽

[illegible]門[illegible]道[illegible]の一文字、

○

庭訓の往来[illegible]入[illegible]　藻舞

[illegible]海[illegible]市二日、

一二編真書[illegible]海の[illegible]　春昔

[illegible]京に[illegible]御[illegible]　淇東

[illegible]初[illegible]心　眠車

雪[illegible]雪[illegible]　正里

はの[illegible]の段、

[illegible]岡西なのき初りか　敬山

[illegible]て[illegible]坂の間乃[illegible]、

○

世[illegible]春[illegible]　正圃

保永月嶋さて弱や玄の奥、
松梅と共に神の門構　正宇
いかりくさ水仙のうきふし、
四海波引くや梅ぬ帆とあけて　如間
とーゝろこと身の宝ほこ玉ふゝ、
寄よ代の浜辺も松の門構　魚行
衆ちゝ可心あつたてとしの祝、
弟ろ〻清水家のきゝや松風　故旋改 正敬
我の川とゝしの市場や芝青、
おくゝしき身の紫形や門の松　互山
りゝゝ和歌さね君の小盃、

祝へて松よ鶴の鶴ひの孔　人十
解つきやよ代よハよ代の杵の音、
ゝこさなくゆゝしく造り鶴　帯雨
娘ゝゝ門よ焼等の影を色、
嵯ゝ和演の共ゝ和の共ゝな　朱山
妹伝や神の御祝よ青鞍、
松寄ゝ休と花の門のさゝ　其司
新民和奥山くを飛ゝの市、
冬山鳥と松浦ほけ岩の梅　阿能
新年ひの春をようやくたゝ、
はゝ井のうたゝやゝのさて　支長

屠さう門のりきやうしゆ、
あらあらいとかなしきよの春　翠羅
長閑なるいとくやしらしかし衣配、
常盤なるいとくやしらしかし世の春や保の春　祇堂
永遠なりとうたうやうに　硯　發香
この春も稽古や君のうしの松　安車
そ朝とせまる春の福寿草　祇長
りく春の波間より船やこぎ出るうれ、
えられ徳のうたうと世　保　連城
焼掃や蕪の根と世を約、
宗旨やかうれの松の門の春　南花
世代の春ほとうなり、
春の宮と世代の世　福生
目出さはしうたうしうな古唐、
峰つゝ入れよ手毎の紫えぶし　柏舟
お座敷大海の福寿草、
座敷はうりをうの夫　洞簫
春まで先に詠んしの雪、
学の春うたうう初礼　其莖
至新年屋の小笹よむ春、
新りやぬ松の緑色や君の夫　昌里
その年と時と梅の一二枝、

市中とまふ丑寅より明の春　宗渡
ゆかしき一文中よ寅やの通の紙、
幸と比べ今朝降るうち世の書　宗富
松寅やよりもを行て庵の藤、
鶯の彫新しき丸の妻　宗隣
冥宮とこあるうき世ちの通の冥、
市人やれ生よき世や柳柳　みき
琴弾て松れ行月と通の冥、
初雨幸と後て寝船　百歯
を山の孫よ雨つ先て通志、
江と戸原入白岩山のつ　乙鈴

心に静すし通を情に入り、
日の春やゆきのよあ西むしの子　雪幣
能いをそうて西行の屋居、
第代人金屋藤よと月川に月　巨園
又数物よ寺行ぬやく師走ぬ、
正出入頭入つ一やあ方相　泉和
しまはしまはしの儀の書、
之り西八盤下部新乃夢　砂明
雪に弱と定一て幸に通屋、
時橋と先世昼寅や今銘の矢　亭牛
解夜と冥ふ一ふり時しの内、

行末の古き物なし　霜の春　南洲
手の角よ夫の行きや昆布上縛　、
文台や仕上とならぬ松の夢　調牛
拾よのこころなりし雪しの事　、
彼方や今も祇代の門なき　魚民
角の笠きと云笠ぬのいや浦賣　、
衣の雪よこき矢く去やき花姫　鳳足
のなりしに其所なるこ浦なる　、
こ祝ぎさいとるぬ去や三箇日　宗依
しの事雪降しに寒ぬ浦なる　、
手つきて去ぬの雪人俗夢の孔　雪弓
終の雪狂ぬるもしーの孔　、
茅屋や松なも磨牛のかるみ　閑波
梅の手孔縁と雪雪や茅雪　、
自の以をこ浦立て、るし手の立　此松
世の中やこし終く宋と小こうつよ　竜屋
茅代御てやこ沢世入春　蘭洲
位の人て松寿しーこ入石　、
四十りそ七野以く鶯や梅の世　花碌
迂宮の一中出年こう自　志　、

○

梅の春下、るつき冬ぬ春　溪梁

一瓢の酒や山路の夏越し、
梅咲や白さ丈夫の山形湯　萬軒
うきうきとあしとうらの石佛、
門雲よりうつる新月の出　千路
生垣に隠さうやゆかの出　百路
大雨をまぬがれうる身の事　冨晴
峰橋の杖をまゆ分き氣　秀民
一つ郭よ約合ひをうつ大海り、
多ちと家居し物波方の濱辺　栃黒
水のうち物多くに似う御定語　風也

○

祝棟の涼自ら花は夾　千局
七夕や北の七夕の祝宴、
御寒堂と花ーー水ーー、

○

直枝よ海ふを傷の鼻孔　青瀾
えりの月海寸空と不二ーー、
身の内と老年ーーう新唐、

○

近宮の清さ水の高門の松　仙菜
近宮へ蛙一匹ーーー蒙橋、
近宮の場入紛来西自の事、

○

[illegible]　森羅斧　宗政

[illegible]

[illegible]

○

一二梅雨さえぬ梅雨空　正朔

菊の後さらに菊の花の夾　春武

[illegible]

健句順

仕到来

[illegible]　蝶扇

正直を人も知るしるの紙、

除夜知る人を用ゐる梅の重　沙詢

○

世界とは人を為る山路の梅咲く　金羅

[illegible]

咲けばくこゝろの中の人の見　迂桑

[illegible]

下を咲くる時も神の國　仙峨

○

[illegible]　左律

梅柳生て共まれるこの岩、

梅の樹より俤なる柳ふる　魚來
陸松の庫納繁きの八福寺仲　、

○

河よ汲出川上や人ぬ柳　珂舩
浦舟の行為や柳や神馬藻　、
屋根船を梅小路や隅田川　文磷
ゆやいの尽しの雲屋の小松寺　、
寺梅の風す出稼所海苔の角　簾之
と波を三度傳や袖の浦　、

○

梅の香の鶯鳴の一や垣一重　今堂
今越て新宮えんやゆしの関　、
手折えし梅の香や青葉　閑江
手波や夏を隠出すれの色　、
出為の松を自者梅の花　左立
笠のみて乗き松ぬ仰しの苔　、
梅咲や知て千代蛍書燈　慎我
解て解き月出岩黄柴打る　、
門口よ夏を孔とり新柳の孔　遠之
柳を通小巷や屋の右繰手　、
尽涼の夏日出や海屋鶏　待美

[illegible]、

七種の粥と雪間のうぐいす　悪璣

かりそめとしれるしのな絵よ梅、

粥のあと[illegible]世のなか　桂瓦

世の代の色の小松やうぐいす、

毛衣や粥の[illegible]梅の花　佐保丸

梅の香の匂ひ梅よ伊勢鶯、

糸筋をよる梅人[illegible]柳　鵬羽

梅の香を[illegible]と香、

世の人市松の青わかよ雛子壽　春里

年波の粥[illegible]昆布　如峯

三寒の梅を[illegible]　曾嵐

梅[illegible]、

[illegible]梅の香、

[illegible]五絃

[illegible]月[illegible]梅の香、

氣先より紅梅の白ひや子[illegible]　鯉藤

身を[illegible]酒[illegible]七[illegible]、

[illegible]の梅と[illegible]松の間　花溪

[illegible]、

七種のはるの[illegible]よに松の　泰國

[illegible]の身の至、

○

世世て八千代添ひ　玉ほこ紀　五梅
能似今ふ色と香　行く末　配、
世人中に咲くもなき梅の花　茂陵
我門を隠て春と咲勝麦、
俗の赤らむるまで枝中梅の花　萬魚
みそ中を桂と咲う人梅の花、

○

石ゆかぬ数本と咲を梅うな　高崎　桐井
蔭ふ出て人を寄しても蔭　帆士

○

梅咲や咲さしりぬ雑り軒　泉之

燥乃日や掃て共ゞ月蓬の菓、
心うく花咲よりう者芳梅　百丸
黒石に白と咲走の関入見、
梅て春と云迄の馬場の初茸　太申
梅の蔭よ咲て梅中迄の内、
ふなぶいて春数を梅のまうか　喜光
月出にかゝぬ対中身ワラ生、
饒豊人と年中入賓　弘　曇潮

歳旦　歳暮

玉梅留時月に二年明の変　光女
梅咲人方明走を囲見小、

月の廿三夜待花の春　笑女
俳諧て柳ゝ枝下をみるかな　、

○

鶯網よ巷入柳絲よりも　恭里
浮寝のなかゝ中の廻舟　、
汐干のゝ寸馬百人と門入来　仙呂
屋形ゝ新花未咲梅の陰　李丈

○

梅ゝ梅琴よ屋形栖の翁　玉蛾
花さよ大咲ゝ入浮寝ゝ　、

○

三ゝ月の芽ゝ出ゝ迄　保牛
法ゝ花貴翁やゝ一の紙　卯毛
春ゝ三ゝ月ゝ初ゝ入影ゝ　三喬

歳暮

年暮九ゝ月ゝ心ゝ入ゝ　買明
ゝ年ゝ月の芽ゝ家ゝ春ゝ　樓川
温故ゝ人ゝ書ゝ比ゝ愛　百萬
少ゝ年ゝ月ゝ入ゝ糟ゝ比　雞口
七ゝ酒の栄ゝ書ゝ中ゝ門　祇丞
三ゝ月ゝ俳ゝ人ゝ一の義　圖大
御ゝ書ゝ中ゝ俳ゝ梅ゝ編の改ゝ　温克

蕎を喰ひ人と語んと欲す　在轉

歩み悪しき山路の行きくれて　祇徳

月りの光に迷ひて迷ふなり　小知

手の枝や掛られ雪悪し　田女

釜の明る民家なりしの音　秀国

浪ゝや嘘笑ひて搭るしの流　可因

手花や古きら側　為秋庵　常仙

夏蕨や百一年と魚千里　金洞

解つきに新敷刈ぬる刈ぬき　葵足

世を刈り終りて去る刈　古明

商人乃徇の見やら海り　菊童

新酒人ゝ下りまれて手ぬ　白頭

欲わるゝ歩ゝ終りて手ぬ　丈天

守歳

理あるとなひし年や手の昏　逸志

ゆゝと搭し水鈴乃神さ　〃

大尾

神風に　存義

神さりし松の〇

伊勢　唐

彫刻
岡本松魚

三

中

不

被